

編集後記

二〇一六年度の共同研究について振り返っておこう。

十二月十七日(土)、本学第2会議室において「天空のコスモロジー 琉球・八重山諸島から見る宇宙」と題するシンポジウムを開催した。講師を務めていただいたのは山里純一氏(琉球大学教授)と宮城幸子氏(石垣市立宮良小学校元校長)である。山里氏の演題は「沖繩の民間文芸にみる星・月・風」、そして宮城氏の演題は「八重山の暮らしと伝承 星・月・風」であった。両講演に対して、本学名誉教授の犬飼公之氏がコメントを務められた。

会場には沖繩に関心のある大勢の方が集まってくださり、シンポジウムは大盛況であった。

振り返れば、このシンポジウムの企画を思いついたのは八重山諸島の波照間島においてであった。

二〇一六年五月、犬飼氏と筆者は「波照間島から南十字星を見よう」という山里氏からの抗いがたい魅力的な誘いを受けて、波照間島を訪れた。波照間島で宮城氏が合流した。山里氏が慎重に日を選んでくださったの波照間島行きであったが、残念ながら、その日は小雨まじりの天気で、南十字星を見ることが望むべくもなかった。しかし、深夜に至って雨も止み、少し星空が見えるようになって「時間的に南十字星は無理かもしれないが、せめて天の川だけでも見よう」ということで車を走ら

せた。やはり雲が多くて十分に星空を眺めることはできなかったが、それでも雨上りの澄んだ空気を通してみる星空は美しかった。その時、宮城氏が星にまつわる伝説を私たちに語ってくださったのである。星がいつそう輝きを増したように感じられたのは筆者だけではなかったであろう。「ぜひ、この話を本学でもしてもらいたい!」。こうして今回のシンポジウムが開催に向けて動き出したのである。「天空のコスモロジー」というシンポジウムのタイトルは犬飼氏のひらめきである。壮大な宇宙そして宇宙観を見事に表現しており、まさに絶妙としか言いようがない。

会場を埋め尽くした聴衆の皆さんが今回のシンポジウムを通して少しでも琉球・八重山諸島の宇宙を感じ取ってくださったのであれば、私たちの波照間島行きは大成功であったことになる。なお、本誌今号には犬飼氏が今回のシンポジウムに関する論考を寄せてくださった。シンポジウムを振り返るということもあり、今号には山里氏と宮城氏が用意された資料を掲載することとした。ちなみに、山里氏と宮城氏の論考は次号に掲載される予定となっている。

今年度も生涯学習講座「知りたいっちゃ沖繩 行きたいっちゃ沖繩」の受講生とともに沖繩ツアーを行った。今回の訪問地は宮古諸島であった。具体的には、宮古島および宮古島と橋で結ばれている池間島、伊良部島、そして宮古島から飛行機で30分のところに位置している多良間島を巡った。宮古島では、平成二十四年度以降、「宮古島市No.1歴史文化ロード」整備事

業が進められて、「綾道」という散策コースをたどりながら宮古島の歴史や文化に触れることができるようになっていく。宮古島では「綾道」をたどり、砂山や西平安名崎、東平安名崎など風光明媚な景色を楽しんだ。狩俣地区にある遠見台からは大神島を眺めた。池間島では『池間民俗語彙の世界 宮古・池間島の神観念』を著した伊良波盛男氏の丁寧な案内を受けて池間独特の文化に触れた。また、多良間島では観光案内総合コーダイネーターで多良間島観光サービスの富盛玄三氏、多良間村役場の知念裕二氏にお世話になり、多良間島を満喫した。なお、受講生で参加者の一人である杉浦喜代子氏は宮古島の御出身で、今回のツアーに関して大変お世話になった。伊良波氏を御紹介いただいたのも杉浦氏によるものである。御実家にもお招きいただき、初の「おとおり」を経験したのも忘れ得ぬ思い出である。杉浦氏にはこの場を借りて厚く御礼申し上げたい。

ここ数年、沖繩の離島巡りにはまっている。今回、宮古諸島ツアーに参加された生涯学習講座受講生の皆さんに、少しでもその魅力が伝えられたなら幸いである。

（文責 今林）